

活かす通信

2023年9月(194号)

<http://npo-icas.com/>

★★

巻頭言 元時事通信記者 篠田憲

岸田内閣、50%割れし危険水域に～早期解散できず政権運営じり貧

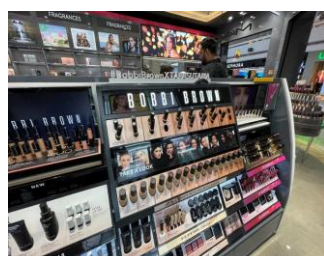
★★

最新(8月)のマスコミ各社の内閣支持率調査結果は、いずれも前月よりも連続低下している。時事通信社の調査では、いわゆる政権の安定度が分かるとされる「青木率(内閣支持率に政権与党の自民党の支持率の和が50%を割り込むかがポイントで政権の安定度を見るメルクマール)が危険水域に入ったとされる調査結果も出ている。今後、松川るい自民党女子局長(参議院議員)らのフランス観光旅行(当事者らは研修旅行と主張している)騒動が続いており、加えてマイナンバーカードの混乱、福島原発の処理水放出で更なる支持率低下も予想され、また最側近とみられる木原誠二官房副長官の疑惑や党内最大派閥・安部派の混乱も続いており、早期の解散はもちろん、来月の党人事・内閣改造次第では、岸田文雄首相の政権運営が、じり貧となる公算が大きい。

朝日新聞、共同通信社を最後に最新の世論調査が出そろった。それによると、各社の岸田内閣支持率は3ヵ月連続で下落しており、反面不支持率が50%を超えている。中でも時事通信社の内閣支持率は目を覆うばかりの酷い結果である。なんと岸田内閣の支持率は26.6%、自民党の支持率は21.1%に下落。この結果、青木率は47.7%で、通常では危険水域と言われる。しかも、この調査は8月上旬に行われており、松川氏らの「フランス観光旅行騒動」が表立っていない時期にあたるわけで、この騒動が加味されるともっと酷いことになっていただろう。「青木率」が47.5%と5割を下回ったことは、8年余り続いた故安部晋三内閣ではなかった数字。「三角大福中と呼ばれる時代のように、総理総裁を狙う人材が存在していた時代では、すぐに政変に突入していただろう」(自民党長老)と言われるほどだ。また秋元冥利外務政務官(検察が動いた時点で辞任)が「再生エネルギー疑惑」で東京地検の強制調査を受けたこともポイントである。同氏は

品の時代が到来している。インドは若くて、裕福な若者層の中心地になりつつあるようだ」と言っています。

私たちのインドのイメージには「遅くて、安くて、汚い」がありました。しかし、その時代は過ぎ去ろうとしています。「早くて、高級で、美しい」インドがもうそこまで来ています。



~~~~~ お知らせ ~~~~~

皆様、メールマガジンをご愛読いただきありがとうございます。早いもので、インドを色々な角度から書いてきてもう 4 年が経ちました。皆様の資産運用にお役に立っているでしょうか。

実はお知らせです。国際エコノミストの今井激先生の著書『2024 年世界マネーの大転換』（フォレスト出版）が 8 月 23 日に発売されます。その第 4 章「どの角度から捉えてもやってくるインドの時代」は、先生と私との対談です。

内容は、なぜインドなのかを読みやすく纏めたものです。できましたらお手にとってご覧ください。他の専門家のご意見も新 NISA が始まる 2024 年の準備には大変参考になりますよ。

それでは皆様、今後ともよろしく願いいたします。



円) が想定される。①の場合は 31546 円、②の場合は 30436 円、③の場合は 29325 円となる。③は最悪のケースとなる。通常の調整は②まで 30000 円の攻防となる。現在の問題は大幅金利上昇にも関わらず、はっきりとした景気後退の兆候が見られないことにある。円ドルも昨年 10 月 21 日の 151.945 円を更新してもおかしくない動きをしている。これは 8 月 24~26 日のジャクソンホールでの会合次第ということに、日銀の勧誘も会議以降ということになるだろう。もう一つの不安要因は中国の不動産バブル破裂の不気味さにある。この不動産バブルは昨年来から続いているもので、2022 年 4 月 30 日の安値 2863P、同年 11 月日の安値 2885P でダブルボトムを形成しており、テクニカル的にはまだ余裕がある。9 月 9 日が一目均衡表の変化日に当たり、ここまでには調整が終わることを期待したい。不透明要因が多いことで企業の業績発表は保守的だけに、落ち着きを見せれば再度の 33000 円の挑戦もあるが、戻り一杯になることも考慮して対応したい。

#### 今月の映画：さらば、わが愛/霸王別姫

原作は李碧華（リ・ピクアー）の同名小説で 1993 年の中国映画で、1993 年大 6 回カンヌ国際映画祭ではパルム・ドール賞を受賞している。「霸王別姫」とは、四面楚歌で有名な項羽と虞美人とを描いた京劇作品で、この映画では劇中劇として演じられている。

1920 年代の中国・北京、桜閣の女郎の私生児である小豆子は、京劇俳優養成所に連れていかれ、捨てるように預けられる。厳しい稽古と折檻の中、仲間からは娼婦の子としていじめられた。ことあるごとに助けてくれたのが先輩の石頭で、やがて小豆子は石頭に思慕を抱くようになる。ある時、脱走を試みたが、偶然に出くわした名優の舞台を目にし、名声通りの素晴らしさに感銘を受け、養成所に戻る。仲間たちは脱走を見逃した罪で激しい罰を受けていた。小豆子は黙って折檻を受ける。成長した二人（小豆子と石頭）は、それぞれ蝶衣と段小桜という芸名で、「霸王別姫」で共演しトップスターとなる。小桜はやがて女郎の菊仙と結婚する。幸せを手に入れた菊仙に対して嫉妬に狂う蝶衣は、同性愛者で京劇界の重鎮の庇護を求め、小桜との共演を拒絶する。日中戦争が激化した 1937 年、北京は日本軍の支配下に置かれる。蝶衣の姿の「牡丹亭」の舞は日本人将校を魅了する。堅気の生活に入った小桜は墮落し、賭博にはまり舞台衣装も売り払う羽目になる。一方、蝶衣はアヘン中毒に溺れていった。二人は元に戻る決意をし師匠と再会する。日本の敗戦が決まり、舞台を続けるが、国民軍の感激態度は日本軍以下で、舞台関係者と兵士が乱闘することになり、裁判にかけられる。その後、また舞台に戻るも、労働者を主役とする共産主義とは相容れぬものがあった。文化大革命を機に、墮落の象徴として京劇は弾圧の対象となり、蝶衣と小桜は自己批判を強要されることに。172 分の歴史絵巻、超大作です。



NPO イカス：東京都港区新橋 3-16-12 横山ビル 6F

[info@npo-icas.com](mailto:info@npo-icas.com) <http://www.npo-icas.com>

★年会費等振込先：三菱 UFJ 銀行、新宿中央支店、普通 5 3 1 3 5 5 0  
特定非営利活動法人イカス

★毎日 FB・ツイッター更新：望月純夫（証券歴 50 年超、ラジオ日経他等）